

博物館だより



www.miyako-museum.jp

No.206

令和6年1月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2023年1月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

休館日 ※情報はR5.12.18現在

◆博物館NEWS

令和5年度出張展示

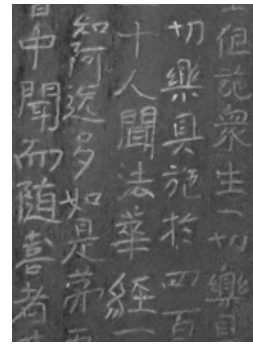
大分県立歴史博物館inみやこ！開催

「おとなり県から「おいたの宝」たちが、みやこ町へやってくる!!」
会期：1月13日(土)～3月17日(日) 場所：館内ホール

観覧無料!

大分県立歴史博物館(通称「れきはく」・大分県宇佐市)は、「豊の国おいた」の歴史と文化の魅力、文字通り豊かな歴史遺産を通じて私たちに届けてくれる「大分の宝箱」です。

とりわけ宇佐周辺(豊前地方南部)に花開いた仏教文化を、古代から現代に至るまで分りやすく紹介していますが、その中身は私たち京都平野(豊前地方北部)の文化とよく似ています。その一方で、「こは京都と違うなあ」というものもあり、豊前地方の南と北は「よく似て非なるおとなりさん」となっています。そんな豊前地方の南北の文化の違いを、れきはくが所蔵する精巧な複製資料を通じて感じることが出来る「出張展示 大分県立歴史博物館inみやこ」が当館にやってきました!



▲長安寺銅板法華経(複製/部分拡大)

主な展示資料

- ・三角縁神獸鏡(宇佐市赤塚古墳出土)
- ・中細型銅剣(大分市洪遺跡出土)
- ・銅板法華経(豊後高田市長安寺)
- ・荒鬼面(国東市千灯寺)
- ・こて絵(宇佐市安心院町)

複製とはいえ、迫力は本物と見まがうばかり。当館で行われるケース内展示は、れきはくよりも目近で迫真の観察が可能です。観覧無料となっておりますので、この機会にぜひご来館下さい。

令和5年度 出張展示
大分県立歴史博物館inみやこ

展示期間：令和6年1月13日(土)～令和6年3月17日(日)
観覧時間：9時～16時(入館は15時30分まで)
定休日：毎週月曜日(祝日を含む場合は休館)、毎月第2日曜日(祝日を含む場合は休館)
展示場所：みやこ町歴史民俗博物館 第一ホール(豊前みやこ町豊津1122-13)

主催：大分県立歴史博物館
共催：みやこ町教育委員会
協賛：無休

【観覧場】
大分県宇佐市赤塚町二丁目(豊前歴史民俗博物館)
大分県国東市千代田(千代田歴史民俗博物館)
大分県中津市(中津歴史民俗博物館)
大分県津久井市(津久井歴史民俗博物館)
大分県宇佐市(宇佐歴史民俗博物館)

大分県立歴史博物館(宇佐歴史民俗博物館)
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667
URL: www.miyako-museum.jp

▲上：大分県立歴史博物館/下：出張展示チラシ

◆講座教室・催し物ガイド

1月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
1月6日(土) 13時30分～
 - 【古文書講座】
1月13日(土) 10時～
 - 【古典かな講座】
1月20日(土) 13時30分～
 - 【みやこ学講座】
1月27日(土) 10時～
- ※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

みやこ町文化財防火点検式

第70回文化財防火デーにちなみ、重要文化財・永沼家住宅で防火設備の点検放水等を行います。
見学自由で申込等は不要です。お気軽に見学にお越し下さい!
○日時：1月26日(金) 10～11時
○場所：同住宅(犀川帆柱地内)
○備考：荒天時など中止することがあります。問合せは博物館(0930-4666)へ



▲防火点検式での点検放水(写真は平成29年度のもの)



▲当日は好天に恵まれ恰好のすず払い日和 終了後にお寺様から来年の干支・辰(龍)の開運切絵護符を頂きました

11・12月の業務日誌から

- 11月23日(木)、友の会と合同で秋の文化財研修を行いました。
訪問地は大分県国東市で、秋晴れの中、曹洞宗の古刹・泉福寺や弥生のムラ安国寺集落遺跡公園、三浦梅園資料館などを見学しました。
- 12月2日(土)、国分寺跡公園で友の会恒例の三重塔すず払いが行われました。
今年は過去最多の47人が参加、塔内外はもちろん、公園内各所の清掃やゴミ拾いをし、迎春準備が素早く整いました。



▲九州における曹洞宗の本山とされる泉福寺 寺内立入りを前に喝!を入れるべく参加者全員で記念撮影!!

みやこの歴史発見伝 163

「豊の国」のお餅文化
餅から探るみやこの歴史

「お年玉」のルーツは「お餅」？

新年を迎えた子供たちの楽しみのひとつに「お年玉」があります。近年は「キャッシュレス化」も進むお年玉ですが、本来「御歳魂」と表記されるものでした。御歳魂は正月に歳神（年神）を迎えるためにお供えされた鏡餅を意味します。この鏡餅は魂を表す神器「神鏡」を模した餅で、年神様の依代（神霊が依り憑く対象物）となり、年神様の「御魂」（みたま）が宿ります。この年神様の御魂が宿った餅が、



臼と杵による餅つきの様子

その年の魂「年魂」であり、これを家の主が家族に「御年魂」として分け与えたこととが、その由来とされています。この「年魂」を体内に取り込むための料理が「お雑煮」です。年の初めに年神様から1年を生き抜くために必要な魂（生命力）を授かり、これを家族に分配することによって家族の一年の健康を願う思いが込められたものでした。このように日本では古来より餅は「魂」を象徴する食品であり、また、餅そのものに神聖な力が宿るとされたことから、年始行事には欠かせない「儀礼食」に位置付けられてきました。

このような日本独自の「餅文化」のルーツを辿ってみると、意外にも「豊前」という地名や「みやこ町」の町名の由来となった一連の説話との関連を伺うことができます。今回はこの町が舞台となった日本最古の「餅の記録」をご紹介します。

豊前・豊後の成立について

餅の語源については様々な説がみられますが、「長持ちする飯（もちい飯）」がその語源とみられます。今から約1300年前の奈良時代、福岡県東部から大分県一帯は、「豊国」と呼ばれ、現在の北九州市から大分県宇佐市までの行政区を「豊前国」、これ

以外の大分県域を「豊後国」とよびました。「豊前国府」は現在の県庁のように豊前国の行政機能の中核を担った施設で、みやこ町国作にその建物跡が確認されています。奈良時代に日本各地の文化や地勢等を当時の国ごとに記録・編纂して、天皇に献上した報告書が「風土記」です。現在の大分県域を対象にまとめられたものが『豊後国風土記』で天平5年（733）に完成したとみられています。この中には「豊国」の由来について、みやこ町の豊津地域が舞台となった非常に興味深い次のような記載をみることができます。

豊前の「餅」にまつわる伝承

その昔、景行天皇が九州巡幸のため豊前の地を訪れます。このとき天皇の命によってこの地域を治めていた菟名手という人物が仲津郡の中臣村（推定地は現在のみやこ町田中周辺地域）に滞在していたところ、白鳥が飛んで来て餅となり、その後、幾千もの里芋になりました。菟名手がこの芋を天皇に献じたところ、天皇は喜び、この地を「豊国」と名付けるように命じ、菟名手には「豊国直」という姓を与えたと伝えられています。この中には、現在まで引き継がれている餅に対する日本人の精神文化を表現した重要な語句を確認することができます。

「白鳥」は白い餅に宿る穀物神

を表現したもので、餅が「神聖な食物」であることを強調した例えとみられます。

「里芋」は、餅に代わる食物を表現したものとみられます。現在でも「餅なし正月」の習慣が残る地域では、餅のように粘り気をもつ里芋を餅の代わりに儀礼食とする事例をみることができます。

このように、みやこ町が舞台となったこの説話には餅に対する重要なメッセージが込められていることが分かります。

この町の名称「みやこ」がはじめて文献に登場するのが、この景行天皇に関わる一連の説話にある「天皇、遂に筑紫に幸して豊前國の長峽縣に到りて行宮を興て居します。故、其の處を號けて京と曰ふ。」という記載で、この中では「京」の字が充てられています。

その後、景行天皇は豊後方面に向かいますが、現在の大大分市付近を通った際、「なんと大きな田が広がっていることか！この地を碩田（大きい田）の意味）国と名付けるべし。」と述べたと伝えられており、これが「大分県」の名称の由来とされています。

豊後の「餅」にまつわる伝承

同じ『豊後国風土記』の中には餅にまつわる次のような説話をみることができます。

その昔、豊後の玖珠郡に住む長者が酒宴で餅を作り、その餅を的

にして弓を射たところ、餅は白鳥となって飛び去りました。その後、米を粗末に扱った長者の田畑は荒廃し、家は没落しました。

この記述も豊前と同様に白鳥が「餅の化身」となっていることから、餅が神聖視されたことが伺えます。また「的」になった餅は「丸餅」であった可能性が高く、現在、岐阜県を境に西日本は丸餅、東日本は角餅が主流となっている雑煮餅の形に関わる歴史を垣間見ることができる資料としても注目されます。

「豊国の京都」

菟名手に与えられた「豊国直」という姓は、この当時、政権の中核を担っていた大和王権が特に重要な地域として認めた、この地域の氏族へ特別に授与した姓とみられています。特にみやこ町やその周辺地域は、景行天皇が最初に九州に上陸した場所とみられ、この「京都」から九州各地を巡っています。さらに文献やこの町にみられる天皇の陵墓に匹敵する古墳の調査結果などから「当時の豊国の中心は豊前とみられ、中でも、みやこ町はその中核となる重要な場所であった可能性が高い」という研究者の見解もみられます。「豊国の京都」（豊かな国の中心となる町）という他にはみられない、歴史や由緒ある町の名称を、これからも大切にしてゆきたいものです。

（井上信隆）